

若浜の子ども



令和3年5月13日 第2号

令和3年度 酒田市立若浜小学校の教育について

4月の学校便りでお伝えした通り今年度は、創立50周年という節目の年であることとともに、GIGAスクール元年、小中一貫教育の本格的なスタートなど、後で振り返ったときに、あそこが令和の教育の起点と言われる可能性が高い年です。一方新型コロナウイルスが収まらないことから、もしかするとウイルスとの共存または制圧の起点となる年かもしれません。いずれにしろ今年度は若浜小学校にとっても社会全体にとっても重要な1年になると思います。今年度もこれまで同様、共育(ともいく)の心によるご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

1 学校教育目標

自ら学び、考え、行動する若浜の子ども

— すべての教育活動の基底に「いのちの教育」を —

2 めざす子ども像

- 自ら学び、よく考えるかしこい子(知) → 点数だけでなく、学び合う子どもをめざします。
- 思いやりと正義心があるやさしい子(情・意) → 学校と家庭が手を携えていきましょう。
- よく遊び、体をきたえるたくましい子(体) → 体力だけでなく、生活リズムも大切です。

3 めざす学校像「子どもと教師の笑顔があふれる学校」

- 認め合い、助け合い、共に生きる喜びのあふれる学校
 - 学び合い、できた喜びやわかる喜びのあふれる学校
 - 安全、安心な学校生活のための環境が整った学校
 - 家庭、地域と共育の心で教育に取り組む開かれた学校
- 自己有用感と充実感を子どもが感じることが出来る指導と言葉かけをします。
- いじめ、その他問題行動については、ご家庭と協力し、1つ1つ最後まで解決していきます。

4 児童会目標 かがやけ若っ子

- か …かंगाえいっぱい 若っ子
- が …がんばりいっぱい 若っ子
- や …やさしさいっぱい 若っ子
- け …げんきいっぱい 若っ子

なかよし班活動(1年生から6年生までの縦割り班活動)を大切にし、友だちや異学年とのふれあいを通して、学校生活をより明るく楽しく充実したものにしていきます。

差別やいじめのない社会・地域・学校に



新型コロナウイルスの感染や発症によって、体だけでなく心に大きな傷を受けてしまうケースがあります。望んで感染したわけではない病気によって、周囲から差別的な視線を浴びることは耐えがたい苦痛です。そんなことがない「安心して通うことができる若浜小学校」にしてほしいということで、第二民生委員・児童委員協議会から「シトラスリボン」を4年生にプレゼントしていただきました。

「シトラスリボンプロジェクト」は、すでに御存知の方も多いと思いますが、コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛の有志がつくったプロジェクトです。リボンやロゴで表現する3つの輪は、地域と家庭と職場（もしくは学校）です。このシトラスリボンは、コロナ禍のあるなしにかかわらず、みんなが心から暮らしやすい社会、地域、学校であるための誓いのシンボルとして広げたいと思っています。（4年生以外の学年には、今後若浜コミ振からいただく予定です。）



<かわいいシトラスリボンをいただきごきげんの4年生>

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、病気の問題だけでなく、人々の意識に大きなひずみが生まれています。昨年の今頃は、ウイズコロナの時代をどう生きるかということも話題になっていたのに、現在はどうでしょう。緊急事態宣言どこ吹く風の人。もう一方には極端な自粛を求め、時にはオリンピック選手に圧力をかける発言をSNSで浴びせる人。どちらも、生きづらい世の中をつくることにつながるのだと私は思います。

昨年度も、学校便りで取りあげた、物理学者で随筆家の寺田寅彦（夏目漱石の門下生 1878年～1935年）の以下の言葉を今一度思い起こし、感染防止についての適切な行動を考えたいものです。

ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正當にこわがることはなかなかむづかしいことだ。